

(別添2-1)

## 学 則

①商号又は名称	株式会社ベイシック・ケアリング
②研修事業の名称	株式会社ベイシック・ケアリング 介護職員初任者研修
③研修の種類	介護保険法施行令に基づく介護員養成研修
④研修課程及び 学習形式	介護職員初任者研修課程 ・通学形式 ・通信形式 (通信学習実施計画書 (別添2-10) を参照。)
⑤事業者指定番号	253
⑥開講の目的	地域の福祉施設と連携し本研修を実施することで、地域における介護従事者の発掘、育成を行う。専門的な知識、技術を身に着け、質の高い職員を養成する。
⑦講義・演習室 (住所も記載)	社会福祉法人恵愛会 オレンジ池田 多目的ホール 大阪府池田市井口堂2丁目4-6
⑧実習施設	1 実施しない 2 実施する (実習施設一覧表 (別添2-7) を参照。)
⑨講師の氏名及び 担当科目	講師一覧表 (別添2-3) を参照。
⑩使用テキスト	介護職員初任者研修テキスト1 介護のしごとの基礎(中央法規) 介護職員初任者研修テキスト2 自立に向けた介護の実際(中央法規)
⑪シラバス	シラバス (別添2-2) を参照。
⑫受講資格	開校日時において、満16歳以上の者。 研修修了まで通学及び自宅学習が可能なる者。 介護について学習を希望するもの。
⑬広告の方法	弊社HP、チラシ、パンフレット、SNS、市町村広報誌他
⑭情報開示の方法	下記ホームページにおいて情報開示する。 ホームページアドレス： <a href="http://basic-carering.jp/">http://basic-carering.jp/</a>
⑮受講手続き及び 本人確認の方法 (応募者多数の 場合の対応方法 を含む)	・受講希望者に対して、研修案内、学則受講申込書、カリキュラムを送付する。 ・受講希望者は、受講申込書を記載し、郵送にて申し込みをする。 ・受講希望者は、申込後、開校日の1週間前を目途に指定口座へ銀行振り込みを行い手続完了とする。 ・開校日初日に、本人確認書類(運転免許証、健康保険証、介護保険証、住民票、各種手帳等)の提出にて身分確認を行う。 ・応募多数の場合、手続き完了者の順で決定する。

⑩ 受講料及び受講料支払方法	55,000円(テキスト代、消費税含む) 期日までに下記口座に振り込みとする。 三井住友銀行 和泉支店 普通預金No.0272524 ※支払い方法は一括払いとする。
⑪ 解約条件及び返金の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者からのキャンセルは、開校日の7日前までは、全額返金とする。それ以降は、原則返金に応じない。</li> <li>・受講者数が一定数に満たない場合、開校不可とする場合がある。その際は、全額返金を行う。</li> </ul>
⑫ 受講者の個人情報の取扱	<p>個人情報保護規程策定の有無 (有)・無)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者から取得した個人情報は、個人情報保護規定に則り、適切に取り扱う。受講の運営、連絡事項のみに利用し、その他の目的で一切利用をしない。</li> <li>・修了者は大阪府の管理する修了者名簿に記載される。</li> </ul>
⑬ 研修修了の認定方法	<p>認定方法：修了を認定した者には修了証明書を交付する。 研修の修了年限：8カ月 修了評価方法：(別添2-9)を参照。</p> <p><b>修了評価試験不合格時の取り扱い</b> 補習及び再評価試験を実施する。但し、再評価試験は最大2回までとする。2回目の再評価試験不合格者については、未修了扱いとする。(補講費用：2,000円、再評価費用3,000円) 又、授業及び試験に対して、度重なる遅刻、早退、授業妨害等が認められる場合、個別に指導し、改善が見られない場合、退校とする。退校となった場合、修了認定は行わず、受講料についても一切返金を行わないものとする。</p>
⑭ 補講の方法及び取扱	<p>補講方法：やむを得ないと認められる場合の欠席者のみ、個別に同一内容の講義・研修による補講を行う。 補講費用：1時間あたり1,000円</p>
⑮ 科目免除の取扱	科目免除は実施しない。
⑯ 受講中の事故等についての対応	受講中に生じた事故等については、当法人の責めに帰すべき事由による事故等について対応する。
⑰ 研修責任者名、所属名及び役職	<p>氏名：北川 香奈子 所属名：株式会社ベイシック・ケアリング 役職：代表取締役</p>
⑱ 課程編成責任者名、所属名及び役職	<p>氏名：北川 香奈子 所属名：株式会社ベイシック・ケアリング 役職：代表取締役</p>

<p>㉔ 苦情等相談担当者名、所属名、役職及び連絡先</p>	<p>氏名：北川 直嗣          所属名：株式会社ベイシック・ケアリング          役職：          連絡先：090-7780-2594</p>
<p>㉕ 研修事務担当者名、所属名及び連絡先</p>	<p>氏名：北川 直嗣          所属名：株式会社ベイシック・ケアリング          連絡先：090-7780-2594</p>
<p>㉖ 情報開示責任者名、所属名、役職及び連絡先</p>	<p>氏名：北川 香奈子          所属名：株式会社ベイシック・ケアリング          役職：代表取締役          連絡先：090-8690-6827</p>
<p>㉗ 修了証明書を亡失・き損した場合の取扱い</p>	<p>「養成研修修了証明書等の亡失・き損時の取り扱いに関する要領」に基づき証明書を交付する。          ・証明書交付に係る費用： 500 円</p>
<p>㉘ その他必要な事項</p>	<p>○本研修は、株式会社ベイシック・ケアリング主催にて行う。          社会福祉法人恵愛会オレンジ池田には、研修会場を提供していただき、地域における介護従事者の発掘、育成のための協力をしていただく。</p> <p>○自家用車による通学可。事前に申込書に記載をお願いします</p> <p>○過程編成責任者の主な略歴、資格          北川香奈子          資格：看護師、社会福祉士他          略歴：病院看護師、専門学校講師、大学講師、福祉施設職員研修における企画、相談、指導等</p> <p>○講師の主な略歴、資格          資格：介護福祉士、社会福祉士、看護師、介護支援専門員他          略歴：介護職員、介護支援専門員、専門学校講師、大学講師、相談支援専門員他</p> <p>○受講者へのメッセージ          株式会社ベイシック・ケアリングの介護職員初任者研修は、社会福祉法人恵愛会、オレンジ池田様と共に、多くの方に介護の魅力を伝えたく、指導経験豊富な講師陣を揃え皆さんの申し込みをお待ちしております。介護を学ぶとは、自分の人生にきづくきっかけとなります。皆さん、共に介護を学びましょう。</p>

※1 大阪府からのお知らせ	大阪府介護職員初任者研修事業実施要領第2の2(1)より抜粋  【内容及び手続きの説明及び同意】 事業者は、受講の受付に際し、受講希望者に対し受講するために必要な費用等を明記した学則の内容及び研修を受講する上での重要な事項等を記載した書面等を配布するとともに、その説明を行い、かつ、あらかじめ受講希望者の同意を得なければならない。
※2 研修事業者の指定担当	大阪府 福祉部 地域福祉推進室 福祉人材・法人指導課 人材確保グループ 電話：06-6944-9165

## シラバス

指定番号 253

商号又は名称：株式会社ベシック・ケアリング

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2	2	0	<講義内容> ●介護保険サービス（居宅、施設） ●介護保険外サービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	<講義内容> ●居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ●居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等) ●ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版、2020年第3版) 付録 DVD
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	1	3	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1) 人権と尊厳の保持            ●個人としての尊重●アドボカシー●エンパワメントの視点、            ●「役割」の実感、●尊厳のある暮らし、●利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2) ICF            介護分野における ICF</p> <p>(3) QOL            ●QOLの考え方、●生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション            ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止            ●身体拘束禁止、●高齢者虐待防止法、●高齢者の養護者支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要            ●個人情報保護法、●成年後見制度、●日常生活自立支援事業</p> <p>&lt;通信学習課題内容&gt;</p> <p>○日本国憲法第 13 条、25 条 ○権利擁護 ○ADL            ○虐待 ○身体拘束</p>
② 自立に向けた介護	3	1	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 自立支援            ●自立・自律支援、●残存能力の活用、●動機の欲求、●意欲を高める支援、●個別性/個別ケア、●重度化防止</p> <p>(2) 介護予防            介護予防の考え方</p> <p>【演習内容】            自立支援のグループディスカッション（介護における自立とは何かについて、「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について意見交換）を行う。</p> <p>&lt;通信学習課題&gt;</p> <p>○自立支援 ○介護予防</p>
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>●人権について●人権への取組み、●身近な人権のこと</p>
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	--------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、 専門性と多職種との連携	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 介護環境の特徴の理解 ●訪問介護と施設介護サービスの違い、●地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性 ●重度化防止・遅延化の視点、●利用者主体の支援姿勢、●自立した生活を支えるための援助、●根拠のある介護、●チームケアの重要性、●事業所内のチーム、●多職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関する職種 ●異なる専門性を持つ多職種の理解、●介護支援専門員、●サービス提供責任者、●看護師等とチームとなり利用者を支える意味、●互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、●チームケアにおける役割分担</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○介護の専門性 ○多職種連携の意義</p>
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>職業倫理 ●専門職の倫理の意義、●介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、●介護職としての社会的責任、●プライバシーの保護・尊重</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○職業倫理</p>
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 介護における安全の確保 ●事故に結びつく要因を探り対応していく技術、●リスクとハザード</p> <p>(2) 事故予防、安全対策 ●リスクマネジメント、●分析の手法と視点、●事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等）、●情報の共有</p> <p>(3) 感染対策 ●感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、●「感染」に対する正しい知識</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○感染対策</p>
④ 介護職の安全	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>介護職の心身の健康管理 ●介護職の健康管理が介護の質に影響、●ストレスマネジメント、●腰痛の予防に関する知識、●手洗い・うがいの励行、●手洗いの基本、●感染症対策</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○腰痛予防</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。



## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベシック・ケアリング

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	4	0.5	3.5	<講義内容> (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ●ケアマネジメント、●予防重視型システムへの転換、●地域包括支援センターの設置、●地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ●保険制度としての基本的仕組み、●介護給付と種類、●予防給付、●要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ●財政負担、●指定介護サービス事業者の指定  <通信学習課題> ○介護保険制度 ○高齢化率 ○前期高齢者、後期高齢者 ○予防給付
② 医療との連携とリハビリテーション	2	0.5	1.5	<講義内容> ●医行為と介護、●訪問看護、●施設における看護と介護の役割・連携、●リハビリテーションの理念  <通信学習課題> ○医行為
③ 障がい者総合支援制度およびその他の制度	3	0.5	2.5	<講義内容> (1) 障がい福祉制度の理念 ●障がいの概念、●ICF (国際生活機能分類) (2) 障がい福祉制度の仕組みの基礎的理解 ●介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ●個人情報保護法、●成年後見制度、●日常生活自立支援事業  <通信学習課題> ○障害者総合支援法
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	2	1	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ●相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、●傾聴、●共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ●言語的コミュニケーションの特徴、●非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ●利用者の思いを把握する、●意欲低下の要因を考える、●利用者の感情に共感する、●家族の心理的理解、●家族へのいたわりと励まし、●信頼関係の形成、●自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、●アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ●視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、●失語症に応じたコミュニケーション技術、●構音障がいに応じたコミュニケーション技術、●認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>【演習内容】 ※グループディスカッション（介護現場における職員間のコミュニケーションについて、障がいレベルに応じたコミュニケーションの違いに関する意見交換）。</p> <p>&lt;通信学習課題&gt;</p> <p>○コミュニケーションの基本的ポイント ○パイスティックの7原則</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	2	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 記録における情報の共有化 ●介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、●介護に関する記録の種類、●個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、●ヒヤリハット報告書、●5W1H</p> <p>(2) 報告 ●報告の留意点、●連絡の留意点、●相談の留意点</p> <p>(3) コミュニケーションを促す環境 ●会議、●情報共有の場、●役割の認識の場（利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、●ケアカンファレンスの重要性</p> <p>&lt;通信学習課題&gt;</p> <p>○記録</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	------------------------------------

--	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこととからだの変化と日常	3.5	2.0	1.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ●防衛反応(反射)の変化、●喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ●身体的機能の変化と日常生活への影響、●咀嚼機能の低下、●筋・骨・関節の変化、●体温維持機能の変化、●精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>【演習内容】 グループディスカッション(老化が影響を及ぼす心理や行動及び、それが日常生活にどのような影響を及ぼすかについての意見交換)。 ○高齢者の疾患 ○高齢者の身体的、社会的、心理的变化について</p>
② 高齢者と健康	3.5	2.0	1.5	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ●骨折、●筋力の低下と動き・姿勢の変化、●関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ●循環器障がい(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、●循環器障がいの危険因子と対策、●老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、●誤嚥性肺炎、●病状の小さな変化に気付く視点、●高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○循環器障害 ○骨、関節 ○浮腫 ○便秘、下痢</p>
(合計時間数)	7	4	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く環境	1	0.5	0.5	<p>&lt;講義内容&gt; 認知症ケアの理念 ●パーソンセンタードケア、●認知症ケアの視点（できることに着目する）</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○認知症ケアの視点 ○せん妄 ○アルツハイマー型認知症</p>
② 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt; 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ●認知症の定義、●もの忘れとの違い、●せん妄の症状、●健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、●治療、●薬物療法、●認知症に使用される薬</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○うつ病 ○アルツハイマー型認知症 ○脳血管性認知症</p>
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<p>&lt;講義内容&gt; (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ●認知症の中核症状、●認知症の行動・心理症状（BPSD）、●不適切なケア、●生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ●本人の気持ちを推察する、●プライドを傷つけない、●相手の世界に合わせる、●失敗しないような状況をつくる、●すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、●身体を通じたコミュニケーション、●相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、●認知症の進行に合わせたケア</p> <p>【演習内容】 認知症の人の中核症状、BPSDが生活にどのような影響を及ぼすか、ロールプレイングを通じて意見交換する。</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○認知機能の障害</p>
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	<p>&lt;講義内容&gt; ●認知症の受容過程での援助、●介護負担の軽減（レスパイトケア）</p> <p>&lt;通信学習課題&gt; ○レスパイトケア</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第1巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	------------------------------------

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベシック・ケアリング

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と I C F, 障がい福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> (1) 障がいの概念と I C F ● I C F の分類と医学的分類、● I C F の考え方 (2) 障がい福祉の基本理念 ● ノーマライゼーションの概念  <通信学習課題> ○ 障害者基本法 ○ I C F
② 障がいの医学的側面, 生活障がい, 心理・行動の特徴, かかわり支援等の基礎的知識	1.5	1.0	0.5	<講義内容> (1) 身体障がい ● 視覚障がい、● 聴覚、平衡障がい、● 音声・言語・咀嚼障がい、● 肢体不自由、● 内部障がい (2) 知的障がい ● 知的障がい (3) 精神障がい (高次脳機能障がい・発達障がいを含む) ● 統合失調症・気分 (感情障がい)・依存症などの精神疾患、● 高次脳機能障がい、● 広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい (4) その他の心理の機能障がい  <通信学習課題> ○ 中途視覚障害のある人 ○ 対麻痺 ○ 統合失調症 ○ 気分障害
③ 家族の心理, かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<講義内容> 家族への支援 ● 障がいの理解・障がいの受容支援、● 介護負担の軽減  <通信学習課題> ○ 家族支援
(合計時間数)	3.5	2.0	1.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第 1 巻 介護の仕事の基礎(中央法規出版)
------------	--------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導體制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	1	1	<講義内容> ●倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、 ●法的根拠に基づく介護  <通信学習課題> ○社会福祉士及び介護福祉士法
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5	3	2	<講義内容> ●学習と記憶の基礎知識、●感情と意欲の基礎知識、●自己概念と生きがい、●老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因、●こころの持ち方が行動に与える影響、●からだの状態がこころに与える影響  <通信学習課題> ○行動、記憶
③ 介護に関するからだのしくみの基礎知識	5	3	2	<講義内容> ●人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、●骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、●中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、●自律神経と内部器官に関する基礎知識、●こころとからだを一体的に捉える、●利用者の様子の普段との違いに気づく視点  <通信学習課題> ○中枢神経 ○膵臓 ○心臓
④ 生活と家事	5	3	2	※【Ⅱ 生活支援技術の学習】④～⑭においては、総時間の概ね5～6割を技術演習にあてることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したこころとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術についての講義等に充てること。  <講義内容> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ●生活歴、●自立支援、●予防的な対応、●主体性・能動性を引き出す、 ●多様な生活習慣、●価値観  <通信学習課題> ○予防
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6	4	2	<講義内容> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ●家庭内に多い事故、●バリアフリー、●住宅改修、●福祉用具貸与  【演習内容】 ・洗濯のマークについて、実際を見て学ぶ



				<p>&lt;通信学習課題&gt; ○福祉用具</p>
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt; 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ●身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、●身じたく、●整容行動、●洗面の意義・効果</p> <p>&lt;演習内容&gt; ・顔の拭き方、整髪の介助、衣服の着脱について障害レベルに応じた介護技術を身につける</p>
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<p>&lt;講義内容&gt; 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ●利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、●利用者の自然な動きの活用、●残存能力の活用・自立支援、●重心・重力の働きの理解、●ボディメカニクスの基本原理、●移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、●移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、●褥瘡予防 ※高齢者に関する内容に特化せず、視覚障がい者や肢体不自由者等の障がい特性を踏まえた内容も併せて教授すること。</p> <p>&lt;演習内容&gt; ☆移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する ☆利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける ☆心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する</p>
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	<p>&lt;講義内容&gt; 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ●食事をする意味、●食事のケアに対する介護者の意識、●低栄養の弊害、●脱水の弊害、●食事と姿勢、●咀嚼・嚥下のメカニズム、●空腹感、●満腹感、●好み、●食事の環境整備（時間・場所等）、●食事に関する福祉用具の活用と介助方法、●口腔ケアの定義、●誤嚥性肺炎の予防</p> <p>&lt;演習内容&gt; ☆食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する ☆利用者本人の力を活用し、食後の介護を行うための技術を身につける ☆心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する</p>
⑨ 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<p>&lt;講義内容&gt; 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ●羞恥心や遠慮への配慮、●体調の確認、●全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、●目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、●陰部清浄（臥床状態での方法）、●足浴・手浴・洗髪</p> <p>&lt;演習内容&gt; ☆入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する ☆利用者本人の力をいかし、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける ☆心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解</p>

				する
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5	0	<p>&lt;講義内容&gt;          排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法          ●排泄とは、●身体面（生理面）での意味、●心理面での意味、●社会的な意味、●プライド・羞恥心、●プライバシーの確保、●おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、●排泄障がいがある日常生活に及ぼす影響、●排泄ケアを受けることで生じる心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連、●一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、●便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p>&lt;演習内容&gt;          ☆排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する          ☆利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける          ☆心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する</p>
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3.5	2	1.5	<p>&lt;講義内容&gt;          睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法          ●安眠のための介護の工夫、●環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、●安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>&lt;通信学習課題&gt;          ○環境整備</p>
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3.5	2	1.5	<p>&lt;講義内容&gt;          終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援          ●終末期ケアとは、●高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、●臨終が近づいたときの兆候と介護、●介護従事者の基本的態度、●多職種間の情報共有の必要性</p> <p>&lt;通信学習課題&gt;          ○終末期の人の心理状況</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt;          ●介護過程の目的・意義・展開          ●介護過程とチームアプローチ（介護福祉士、サービス提供責任者、サービス管理責任者、介護支援専門員、相談支援専門員、その他保健医療福祉従事者との連携の在り方）          ●根拠に基づく支援の在り方</p> <p>【演習内容】          事例を通して、利用者をアセスメントし、個別援助計画書の意図を学ぶ。</p>
⑭ 総合生活支援技術演習	6	6	0	<p>&lt;講義内容&gt;          （事例による展開）          生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>●事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因と、潜在能力、環境面を多面的に分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題→ふりかえり          （1事例2時間程度で実施する）</p> <p>●事例の特性としては、「高齢分野」（要支援状態、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施。          また、2事例のうち、「障がい分野」に関する事例を取り入れる場合もある。</p>

				<p><b>【演習内容】</b>            テキストに記載の事例(糖尿病のある人、脳梗塞のある人、失語症のある人)の各利用者の障害レベルに応じて、情報収集の視点とその情報を多面的に分析し、介護内容の計画を立案する。            各事例に応じて、適切な支援技術演習を行う。</p>
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際(中央法規出版 2020年発行第2版) 付録 DVD 介護職員初任者研修 補助教材 DVD 基本介護技術(介護労働安定センター) 事例で読み解く介護過程の展開(中央法規出版) 介護過程新介護福祉士養成講座 第3版 (中央法規) 介護の基本・介護過程 介護福祉士養成テキスト2 (法律文化社)
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称： 株式会社ベイシック・ケアリング

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研修する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	0	<講義内容> ●研修を通して学んだこと ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
② 就業への備えと研修修了後における事例	1	1	0	<講義内容> ●継続的に学ぶべきこと ●研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（Off-JT, OJT）を紹介
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト 初任者編 全国社会福祉協議会／編
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## 講師一覧表

講師氏名	担当 科目番号、科目名 / 項目番号、項目名	資格(取得年月)	修了評価 担当の有無
		略歴(経験年数)	
		現在の職業(経験年数)	
北川 香奈子	(6) 老化の理解/全項目 (7) 認知症の理解/全項目 (9) 心とからだのしくみと生活支援技術 ① 介護の基本的な考え方 ② 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解 ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ⑩ 排泄に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	看護師(S. 54. 4) 社会福祉士(H19. 4) 看護師(7年3カ月) 専門学校講師(34年2か月) 専門学校講師 ・心とからだのしくみ ・発達と老化の理解 ・医学概論 大学講師(10カ月) ・医療的ケア ・生活支援技術	無
星野 大輔	(1) 職務の理解/全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 ① 人権と尊厳を支える介護 ② 自立に向けた介護 (3) 介護の基本/全項目 (4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携/全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術/全項目 (6) 老化の理解/全項目	介護福祉士(H12. 4) 特別養護老人ホーム ・介護従事者(15年11カ月) 専門学校講師 ・介護の基本(6か月) 通所介護事業所 ・生活相談員(8カ月)	有

	<p>(7) 認知症の理解/全項目</p> <p>(9) こころとからだのしくみと生活支援技術/全項目</p> <p>(10) 振り返り</p>	<p>専門学校講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の理解・人間の理解(3年7か月)</li> <li>・ 障害の理解(2カ月)</li> </ul>	
島崎 将臣	<p>(1) 職務の理解/全項目</p> <p>(2) 介護における尊厳の保持・自立支援/全項目</p> <p>(3) 介護の基本/全項目</p> <p>(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携/全項目</p> <p>(5) 介護におけるコミュニケーション技術/全項目</p> <p>(6) 老化の理解/全項目</p> <p>(7) 認知症の理解/全項目</p> <p>(8) 障がいの理解/全項目</p> <p>(9) こころとからだのしくみと生活支援技術/全項目</p> <p>(10) 振り返り/全項目</p>	<p>社会福祉士(H22.3)</p> <p>介護福祉士(H19.3)</p> <p>社会福祉学・修士課程(H28.3)</p> <p>デイセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護員、生活支援専門員(7年)</li> </ul> <p>リハビリテーションセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護従事者、生活支援専門員障がい者施設</li> <li>・ サービス管理責任者(1年)</li> </ul> <p>専門学校講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の尊厳と自立他(2年)</li> </ul> <p>大学講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の基本他(3年7カ月)</li> </ul>	有
河野 和美	<p>(7) 認知症の理解/全項目</p> <p>(8) 障害理解/全項目</p> <p>(9) こころとからだのしくみと生活支援技術/⑤を除く全項目</p>	<p>看護師(H7.4)</p> <p>訪問看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅看護(7年2カ月)</li> </ul>	有

<p>中島 美樹</p>	<p>(2)介護における尊厳の保持・自立支援/全項目</p>	<p>社会福祉士(H11.4) 介護支援専門員(H13.3)</p> <hr/> <p>財団法人 ・ソーシャルワーカー(9年) ・主任介護支援専門員(9年) JICA国際協力機構 ・ソーシャルワーカー(2年6か月)</p> <hr/> <p>社会福祉法人 ・相談員(2年9か月)</p> <hr/> <p>専門学校講師(3年10か月) ・人間の理解 ・人間の尊厳と自立 ・社会福祉援助技術演習</p>	<p>無</p>
<p>大久保 弘枝</p>	<p>(1)職務の理解/全項目 (2)介護における尊厳の保持・自立支援 ①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護 (3)介護の基本/全項目 (4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携/全項目 (5)介護におけるコミュニケーション技術/全項目 (6)老化の理解/全項目 (7)認知症の理解/全項目 (9)こころとからだのしくみと生活支援技術/全項目 (10)振り返り/全項目</p>	<p>介護福祉士(H12.5) 介護支援専門員(H15.5) 介護教員講習会修了(H20.3)</p> <hr/> <p>保健福祉公社 ・介護職(4年1か月)</p> <p>福祉施設 ・サービス提供責任者 (5年4か月)</p> <p>専門学校講師(10年7か月) ・介護の基本 ・介護過程 ・認知症の理解 ・生活支援技術 ・コミュニケーション</p>	<p>有</p>

		大学講師(4年2カ月) ・福祉用具の理論と実際 ・介護保険事務 ・介護過程 ・生活支援技術 ・児童福祉論	
五味 加菜子	(6) 老化の理解/全項目 (7) 認知症の理解/全項目	看護師(H16.4) 病院 ・看護師(5年9カ月) 包括支援センター ・包括支援業務(7カ月)	無
中谷 友和	(1) 職務の理解/全項目 (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 ① 人権と尊厳を支える介護 ② 自立に向けた介護 (3) 介護の基本/全項目 (4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携/全項目 (5) 介護におけるコミュニケーション技術/全項目 (6) 老化の理解/全項目 (7) 認知症の理解/全項目 (9) こころとからだのしくみと生活支援技術/全項目 (10) 振り返り/全項目	介護福祉士(H11.4) 介護支援専門員(H17.5) 社会福祉士(H27.4) 通所介護施設 ・介護職員(6年10カ月) 居宅介護支援事業 ・介護支援専門員(6か月) 専門学校講師 ・人間の尊厳と自立他 (4年5カ月) 就労継続B型 ・生活支援員(4カ月) 相談支援事業所 ・相談支援専門員(3年2カ月)	有



宮崎 朋子	(1)職務の理解/全項目 (2)介護における尊厳の保持・自立支援 ①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護 (3)介護の基本/全項目 (4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携/全項目 (5)介護におけるコミュニケーション技術/全項目 (6)老化の理解/全項目 (7)認知症の理解/全項目 (9)こころとからだのしくみと生活支援技術/全項目 (10)振り返り/全項目	介護福祉士(H. 13. 3) ----- 特別養護老人ホーム ・介護職員(6年2か月) 短期大学人間福祉学科講師 ・生活支援技術(4年) ----- 専門学校非常勤講師 ・介護社会福祉科(4年7カ 月)	有
-------	---	---	---

(別添2-6)

### 実技演習使用備品一覧表

	メーカー名、商品名、品番等	台数	購入・レンタル・その他の別	合計数
①ベッド	フランスベッド	3	購入・レンタル・その他 ( )	3
			購入・レンタル・その他 ( )	
			購入・レンタル・その他 ( )	
②車いす	車椅子 Miki BAL シリーズ	1	購入・レンタル・その他 ( )	5
	車椅子 MATUNAGA	3	購入・レンタル・その他 ( )	
	リクライニング式 エスコート	1	購入・レンタル・その他 ( )	
③ポータブルトイレ等	アロン化成株式会社 T9261 : 2011	2	購入・レンタル・その他 ( )	2
			購入・レンタル・その他 ( )	
			購入・レンタル・その他 ( )	
④簡易浴槽等	個浴 TOTO バスリフト EWB103S	1	購入・レンタル・その他 ( )	2
	機会浴(特浴) SAKAImed	1	購入・レンタル・その他 ( )	
			購入・レンタル・その他 ( )	
⑤その他の消耗備品等	済 ・ 未			

※①～④の備品については、概ね受講者5～6名に1台準備することが望ましいが、最大8名に1台の割合で準備すること。

※⑤については、演習使用物品等一覧(別紙5)を参考とし、演習に必要な消耗品等を確実に事前準備する体制を整えること。体制が整っている場合は、⑤の欄の「済」に○をつけること。

## 修了評価の方法

評価基準作成者： 北川 香奈子

評価方法及び合格基準	<p>1 出題範囲 (1)「職務の理解」から(9)「こころとからだのしくみと生活支援技術」までとする。</p> <p>2 出題形式 五肢択一問題とする。</p> <p>3 出題数 五肢択一問題 10問 (配点10問×10問=100点)</p> <p>4 合否判定基準 60点以上を合格とする</p> <p>5 不合格になったときの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>結果発表後、直ちに1時間の補修のうえ再評価を行う。 なお、再評価に係る合格基準は60点とする。 補習料：1時間あたり2,000円 再評価料3,000円</li><li>再試験を最大2回まで実施する。 再試験の結果、不合格者には、更に1時間補習を行い、再評価する。 なお、再評価に係る合格基準点は60点とする。 補習料：1時間あたり2,000円 再評価料3,000円</li></ul>
------------	---

(別添2-10)

## 通信学習実施計画書（介護職員初任者研修課程）

### 1 講義を通信の方法によって行う地域

- ・大阪府全域及び、近畿エリア

### 2 添削指導の方法

- ・自宅学習期間の質問方法

対応先 : 株式会社ベイシック・ケアリング 担当 北川香奈子

質問方法 : 原則、電話、メールとする。

電話番号 : 090-8690-6827

メールアドレス : info@basic-carering.jp

### 3 科目別通信学習時間

科目番号・科目名	通信学習時間	通信形式で実施できる上限時間 (別紙3より)
(2) 介護における尊厳の保持・自立支援	5 時間	5 時間
(3) 介護の基本	3 時間	3 時間
(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	7.5 時間	7.5 時間
(5) 介護におけるコミュニケーション技術	3 時間	3 時間
(6) 老化の理解	3 時間	3 時間
(7) 認知症の理解	3 時間	3 時間
(8) 障がいの理解	1.5 時間	1.5 時間
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	12 時間	12 時間

### 4 通信学習課題配布・提出標準日程

- ・課題配布日  
1 回目の通学日、科目番号(2)～(9)を配布
- ・提出標準日程  
5 回目の通学日、科目番号(2)～(5)  
1 2 回目の通学日、科目番号(6)～(9)

## 5 通信学習課題

①課題種類数 1科目

②出題形式及び出題数(数字は問数)

科目番号・科目名	記述式	穴埋め式	択一式	合計
(2) 介護における尊厳の保持・自立支援	6	1	1	8
(3) 介護の基本	4	4	1	9
(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	5	2	1	8
(5) 介護におけるコミュニケーション技術	3	2	1	6
(6) 老化の理解	3	3	1	7
(7) 認知症の理解	5	2	1	8
(8) 障がいの理解	3	2	1	6
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術	0	6	4	10
合計	29	22	11	62

## 6 評価基準

- 科目番号(2)～(5)で、31点満点中19点以上、科目番号(6)～(9)で31点満点中19点以上を合格点とする。記述式問題については、添削講師が記述内容を良、不可で判定し、判定が良の問題を正解とする。
- 合格基準に満たない場合、再提出により再評価を行う。  
再提出期日は、評価内容を通知した日から14日以内とする。

## 7 通信添削業務受託事業者

- (1) 自社で実施する。

## 研修スケジュール(介護職員初任者研修課程) (通信・通学)

コース名 令和3年2月 介護職員養成研修 オレンジ池田 定員 16名

実施日 月 日 曜日	時間	時間数	科目 番号	項目 番号	項目名	講師名	備考
2月14日 (日) 通信課題配布日	9:15~9:45	0.5			開会式・オリエンテーション	北川香奈子	通信課題 配布(課題 1~11)
	9:45~11:45	2	(1)	①	多様なサービスと理解	星野大輔	
	12:30~16:30	4	(1)	②	介護職の仕事内容や働く現場の理解	星野大輔	
2月21日 (日)	9:15~9:45	0.5	(3)	②	介護職の職業倫理	大久保弘枝	
	9:45~10:15	0.5	(3)	③	介護における安全の確保とリスクマネジメント	大久保弘枝	
	10:15~11:15	1	(3)	④	介護職の安全	大久保弘枝	
	11:15~12:15	1	(3)	①	介護職の役割、専門性と多職種との連携	大久保弘枝	
	13:00~14:00	1	(2)	①	人権と尊厳を支える介護	中島美樹	
	14:00~15:00	1	(2)	②	自立に向けた介護	中島美樹	
	15:00~17:00	2	(2)	③	人権啓発に係る基礎知識	中島美樹	
2月28日 (日)	9:15~9:45	0.5	(4)	①	介護保険制度	島崎将臣	
	9:45~10:15	0.5	(4)	②	医療との連携とリハビリテーション	島崎将臣	
	10:15~10:45	0.5	(4)	③	障がい者総合支援制度およびその他制度	島崎将臣	
	10:45~11:45	2	(5)	①	介護におけるコミュニケーション	島崎将臣	
	12:30~13:30						
	13:30~14:30	1	(5)	②	介護におけるチームのコミュニケーション	島崎将臣	
3月7日 (日)	9:15~9:45	0.5	(8)	①	障がいの基礎的理解	河野和美	
	9:45~10:45	1	(8)	②	障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	河野和美	
	10:45~11:15	0.5	(8)	③	家族の心理、かかわり支援の理解	河野和美	
	11:15~12:15	1	(9)	①	介護の基本的な考え方	北川香奈子	
	13:00~15:00	2	(6)	①	老化に伴うこころとからだの変化と日常	北川香奈子	
	15:00~17:00	2	(6)	②	高齢者と健康	北川香奈子	
3月14日 (日)	9:15~12:15	3	(9)	②	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	北川香奈子	
	13:00~16:00	3	(9)	③	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	北川香奈子	
3月21日 (日) 通信課題提出日	9:15~9:45	0.5	(7)	①	認知症を取り巻く状況	五味加菜子	通信課題 提出 (課題1~ 4)
	9:45~10:45	1	(7)	②	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	五味加菜子	
	10:45~11:45	1	(7)	③	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	五味加菜子	
	11:45~12:15	0.5	(7)	④	家族への支援	五味加菜子	
3月28日 (日)	9:15~12:15	4	(9)	⑤	こころとからだのしくみと自立に向けた介護、 快適な居住環境整備と介護	宮崎明子	
	13:00~14:00						

4月4日(日)	9:15~12:15 13:00~16:00	6	(9)	⑥	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	星野大輔	
4月11日(日)	9:15~12:15 13:00~17:30	7.5	(9)	⑦	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	中谷友和	
4月18日(日)	9:15~12:15 13:00~14:30 14:30~16:30	4.5 2	(9) (9)	⑧ ⑫	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	河野和美 河野和美	
4月25日(日)	9:15~11:15 12:00~15:00	2 3	(9) (9)	⑪ ④	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 生活と家事	宮崎明子 宮崎明子	
5月2日(日) 通信課題提出日	9:15~12:15 13:00~17:30	7.5	(9)	⑩	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	北川香奈子	通信課題提出 (課題5~11)
5月9日(日)	9:15~12:15 13:00~17:30	7.5	(9)	⑨	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	星野大輔	
5月16日(日)	9:15~16:00	6	(9)	⑭	総合生活支援技術講習	中谷友和	
5月23日(日)	9:15~16:00	6	(9)	⑬	介護過程の基礎的知識	島崎将臣	
5月30日(日)	9:15~12:15 13:00~14:00 14:00~15:00 15:00~15:30 15:30~16:00 16:15~17:15 17:15~18:15 18:15~18:45 18:45~19:15	3 1 1 0.5 0.5 1 1 0.5 0.5	(10) (10)	① ②	振り返り 就業への備えと研修修了後における実例 修了評価筆記試験 試験結果集計・採点・合否発表 修了式 不合格者補講 再修了評価筆記試験 再試験結果集計・採点・合否発表 修了式	中谷友和 中谷友和 中谷友和 中谷友和 北川香奈子 中谷友和 中谷友和 中谷友和 北川香奈子	

令和 2年 1月31日現在

(単位:円)

科 目	前 期 額	構成比	決 算 額	構成比
( 資 産 の 部 )				
I 流 動 資 産	460,290	48.5	578,767	60.7
現金	51,090	5.4	59,119	6.2
預金	336,200	35.4	446,648	46.9
掛替	73,000	7.7	73,000	7.7
II 固 定 資 産	115,034	12.1	1	0.0
有形固定資産	115,034	12.1	1	0.0
その他の有形固定資産	115,034	12.1	1	0.0
無形固定資産	0	0.0	0	0.0
投資その他の資産	0	0.0	0	0.0
III 繰 延 資 産	373,968	39.4	373,968	39.3
繰延資産	373,968	39.4	373,968	39.3
資 産 の 部 合 計	949,292	100.0	952,736	100.0



科 目	前 期 額	構成比	決 算 額	構成比
( 負 債 の 部 )				
I 流 動 負 債	( 81,224 )	( 8.6 )	( 83,470 )	( 8.8 )
未 払 法 人 税	80,000	8.4	80,000	8.4
預 り 金	1,224	0.1	3,470	0.4
II 固 定 負 債	( 2,169,152 )	( 228.5 )	( 1,793,792 )	( 188.3 )
そ の 他 の 固 定 負 債	2,169,152	228.5	1,793,792	188.3
負 債 の 部 合 計	2,250,376	237.1	1,877,262	197.0
( 純 資 産 の 部 )				
I 株 主 資 本	( -1,301,084 )	( - )	( -924,526 )	( - )
1. 資 本 金	3,000,000	316.0	3,000,000	314.9
2. 資 本 剰 余 金	0	0.0	0	0.0
3. 利 益 剰 余 金	(△ 4,301,084)	(453.1)	(△ 3,924,526)	(411.9)
(i) そ の 他 利 益 剰 余 金	( -4,301,084 )	( - )	( -3,924,526 )	( - )
繰 越 利 益 剰 余 金	△ 4,301,084	453.1	△ 3,924,526	411.9
II 評 価 ・ 換 算 差 額 等	0	0.0	0	0.0
III 新 株 予 約 権	0	0.0	0	0.0
純 資 産 の 部 合 計	-1,301,084	-	-924,526	-
負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	949,292	100.0	952,736	100.0

(単位:円)

科 目	前 期 額	構成比	決 算 額	構成比
I 売上高 教育関連収入	( 3,937,789)	(100.0)	( 3,700,830)	(100.0)
	3,937,789	100.0	3,700,830	100.0
II 売上原価 教育関連費用	( 207,078)	( 5.3)	( 80,640)	( 2.2)
	0	0.0	0	0.0
	207,078	5.3	80,640	2.2
III 売上総利益 教育関連利益	207,078	5.3	80,640	2.2
	0	0.0	0	0.0
	3,730,711	94.7	3,620,190	97.8
III 販売費及び一般管理費 販売費及び一般管理費	( 1,727,689)	( 43.9)	( 3,163,632)	( 85.5)
	1,727,689	43.9	3,163,632	85.5
IV 営業外収益 受取利息	2,003,022	50.9	456,558	12.3
	1	0.0	0	0.0
	1	0.0	0	0.0
V 営業外費用	0	0.0	0	0.0
経常利益	2,003,023	50.9	456,558	12.3
VI 特別利益	0	0.0	0	0.0
VII 特別損失	0	0.0	0	0.0
税引前当期純利益	2,003,023	50.9	456,558	12.3
法人税、住民税及び事業税	80,000	2.0	80,000	2.2
当期純利益	1,923,023	48.8	376,558	10.2

## 個別注記表

平成31年 2月 1日から  
令和 2年 1月 31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 60株

IV. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、-15,408.76円であります。

2. 一株当たり当期純利益は、6,275.96円であります。

以上